

(案)

# 射水市DXビジョン

射水市DXはLX(生活スタイル変革)

Ver.2.0

# 目次

## 01 DXビジョンの改訂について

(1) 本市の取組について .....	1
(2) 未来像について .....	2

## 02 DXで目指す未来の姿

全体像 .....	3
① 生まれる .....	4
② 育つ .....	5
③ 学ぶ .....	6
④ 働く .....	7
⑤ 暮らす .....	8
⑥ みがく .....	9
⑦ つなぐ .....	10

## 03 DXの推進に向けて

(1) 安心して参加できるように .....	11
(2) デジタルが苦手な方のために .....	11
(3) 市役所のDX .....	12
(4) DX推進体制 .....	13

## (1) 本市の取組について

### キャッチコピー

# 射水市DXはLX 生活スタイル変革 (Lifestyle Transformation)

近年、高齢化や人口減少が深刻化する中、社会を支える担い手不足や、それに伴うサービスの質や産業の競争力、地域社会の機能低下などが懸念されています。

また、デジタル技術の急速な進展に伴い、生活のあらゆる場面でデジタル化が進行しており、個人の価値観やライフスタイルが大きく変化しています。

こうした中、本市では令和3年8月にDXビジョンを策定し、「射水市DXはLX（生活スタイル変革）」をキャッチコピーに、地域コミュニティの醸成や移住・定住促進、健康寿命の延伸、便利な地域交通、企業のDX支援、スマート窓口の導入など、様々な分野でDXの推進に取り組んでまいりました。

新たなDXビジョンにおいても、DXを活用した施策に継続して取り組み、多くの人が集い、交流し、あらゆるライフステージで幸せを実感できる社会の実現に向け、市民の皆さんと共にLX（生活スタイル変革）に挑戦します。

## (2) 未来像について

本ビジョンは、第3次射水市総合計画で構成するライフステージに合わせ、DXの推進で目指す10年後（2035年）の未来を想像し、作成しています。

本取組をライフステージに合わせ、あらゆる分野でDXを推し進めるため、市職員が自ら最新のデジタル技術を体験するイベント「IMIZU Future connect day」を開催し、各部局から「DXの推進により、10年後の射水市で実現していると理想的である未来の姿」についての提案募集を行ったほか、富山県立大学の学生と市職員による「未来の姿」を考えるワークショップで出たアイデアも参考にしています。

また、市と関わりのある高等教育機関や民間企業、関係団体の意見も取り入れています。



令和7年6月 体験イベント「IMIZU Future connect day」の様子



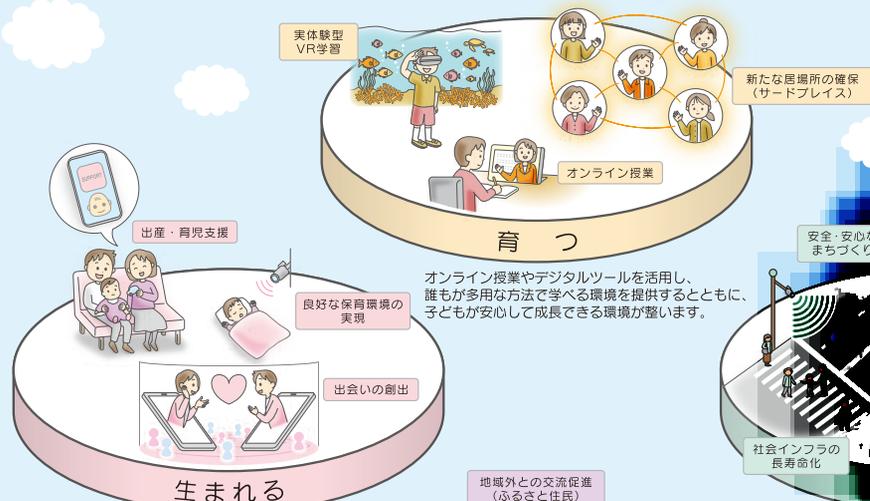
令和7年8月 「未来の姿」ワークショップの様子



※2035年の未来を想像し作成しておりますが、社会経済情勢や国の動向、情報通信技術の進展を踏まえ、適宜見直しを行います。

# DXで目指す未来の姿【IMIZU2035】

先端的なデジタル技術を活用することにより、様々な地域課題の解決や新たな価値の創造、関係人口の創出につながる取組を推進し、多くの人が集い、交流し、あらゆるライフステージを通じて幸せを実感できる社会の実現に向け挑戦します。



## LX 生活スタイル変革 (Lifestyle Transformation)



## ① 生まれる

## 現状と課題

2025年

結婚に対する意識が多様化するとともに、経済的不安や出会いの機会の不足により未婚や晩婚化が進んでいます。これらへの対応として、結婚相談や支援者の養成、ライフプランニング支援を含む幅広い支援が必要となっています。

また、核家族化や近隣関係の希薄化が進む中、子育て家庭の孤立化や育児不安が増えています。保育士不足や保育ニーズに対応するとともに、妊娠期から切れ目のない相談支援を充実させ、地域全体で子育てを支援する環境づくりが求められます。

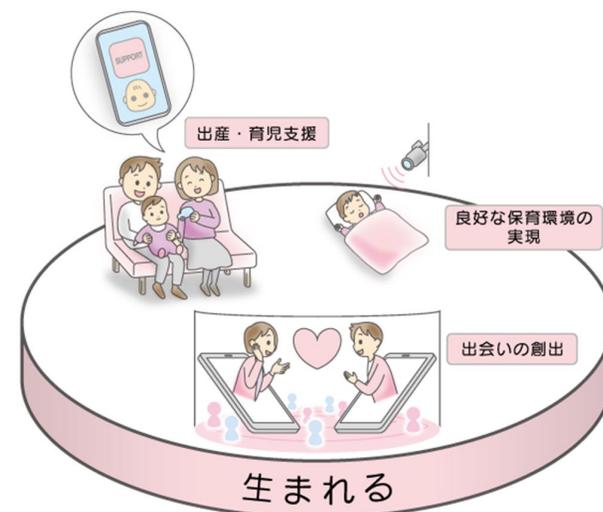
## 目指す未来の姿

2035年

デジタル技術の活用により、結婚を希望する人に新たな出会いの機会が創出されています。

また、保育の現場ではDXが推進されることで業務の効率化が進み、保育時間の確保や情報の共有により保護者も安心して子育てができる仕組みが整っています。

さらには、地域で子育てを見守り支援する温かな環境が広がり、子育てに関する相談体制が充実することで、誰もが希望を持って家族を築き、安心して生み育てられる社会が形成されています。



## 想定される事業

2026年～

- ・結婚を希望する人へのデジタル技術を活用した新たな出会いの創出
- ・母子手帳アプリを活用した出産・育児の支援
- ・保育DXを活用した保護者と保育現場の負担軽減
- ・地域での見守りや子育てを応援する環境（オンラインコミュニティ等）の整備

## ② 育つ

## 現状と課題

2025年

子どもたちの確かな学力や主体的な学習習慣の定着の推進と、不登校や特別な支援が必要な児童生徒への対応が求められています。

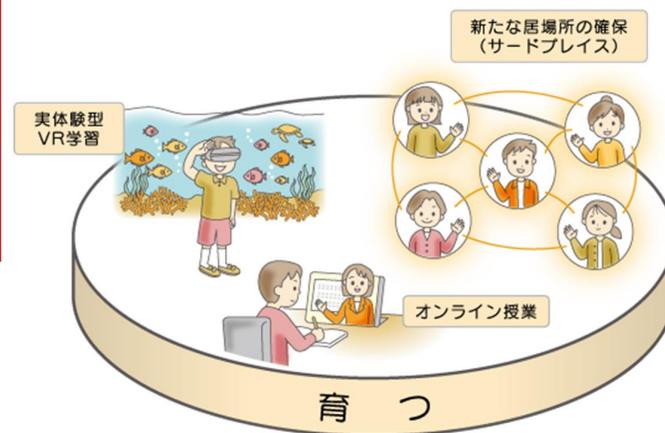
学校と家庭、地域、関係機関が連携した相談支援体制を充実させるとともに、地域と一体となった学校づくりや郷土愛への理解を深める教育を推進し、ふるさとの未来を担う人材育成の取組が重要となっています。

## 目指す未来の姿

2035年

子どもたちが学びの場・機会を平等に享受でき、学習意欲や主体性を伸ばせる環境が整っています。オンライン授業やデジタルツールを活用し、不登校や特別な支援を必要とする児童・生徒を含め、誰もが多様な方法で学べる場を提供するほか、実体験型の学習で理解を深めています。

地域の自然や文化に触れる教育が郷土愛と誇りを育み、子どもたちが安心して成長できる社会が構築され、地域と学校が共に未来を築く持続可能な社会が実現しています。



## 想定される事業

2026年～

- ・データによる学びの支援、多様なツールで学べる環境の実現
- ・授業や行事に参加できない生徒へのオンライン授業の実施
- ・実体験型VR(\*1)学習による学びの推進
- ・デジタル上での新たな居場所(サードプレイス(\*2))の確保
- ・ふるさと射水への愛着を育む教育の充実(オンライン講座等)

\*1: VR (Virtual Reality)  
コンピュータ技術を用いて作り出された仮想空間のこと

\*2: サードプレイス  
自宅や職場以外の居心地の良い場所のこと

## ③ 学ぶ

## 現状と課題

2025年

地域住民や子ども同士で交流する機会が減少していることから、郷土の自然や伝統芸能を活用した体験学習を促進し、子どもの豊かな成長を支える必要があります。

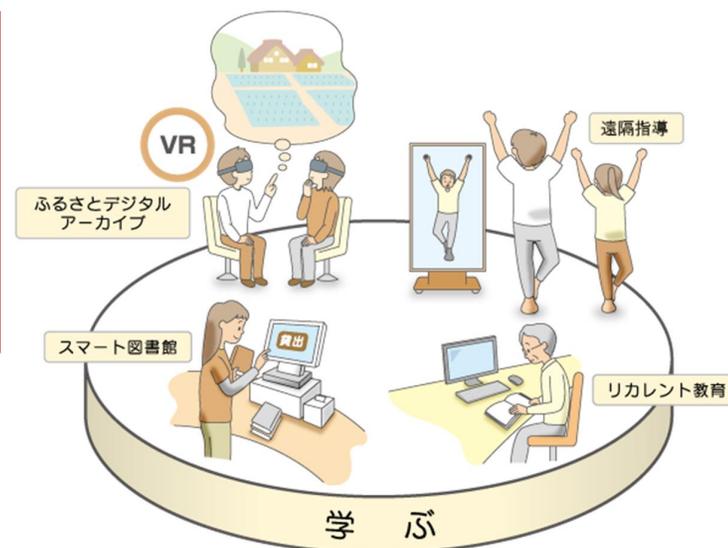
また、体力低下やスポーツ環境の変化を受け、スポーツ指導者の充実を図り、スポーツ参加の機会を広げることに加え、生涯学習活動においては、新たな学びの場を提供することが求められています。

## 目指す未来の姿

2035年

過去の映像や記録のデジタルアーカイブの整備により、郷土への理解と誇りが育ち、地域文化を次世代に継承できる仕組みが確立するとともに、オンライン講座や遠隔指導により子どもから大人まで、いつでも学び続ける環境が整い、市民一人ひとりが、生涯にわたり成長と充実した生活を送る社会が実現しています。

また、新たなデジタル体験が世代間の絆を深め、世代や地域を超えた多様な学びと交流により、活気ある地域社会が創出されています。



## 想定される事業

2026年～

- ・ふるさとデジタルアーカイブ<sup>(※3)</sup>による郷土学習の充実
- ・スポーツ指導者や経験者からの遠隔指導
- ・eスポーツ<sup>(※4)</sup>を通じた世代間交流の促進
- ・リカレント教育<sup>(※5)</sup>（オンライン講座）の実施
- ・スマート図書館の推進

※3：デジタルアーカイブ

物理的な資料や情報をデジタル形式で保存・管理すること

※4：eスポーツ（electronic sports）

ビデオゲームなどを使った対戦型のスポーツ競技のこと

※5：リカレント教育

学校教育が終了した後も、生涯にわたって学び続けること

## 4 働く

## 現状と課題

2025年

若い世代、特に若い女性の流出を防ぐため、魅力ある就業機会を確保する企業の誘致や、多様な働き方に対応した職場環境の充実が求められています。

農水産物の価格低迷や担い手不足に対応するため、スマート農業の導入による生産の効率化や、商品の付加価値を高めブランド力を高めることが重要です。また、限りある水産資源を保全し、持続可能な漁業の確立が求められています。

## 目指す未来の姿

2035年

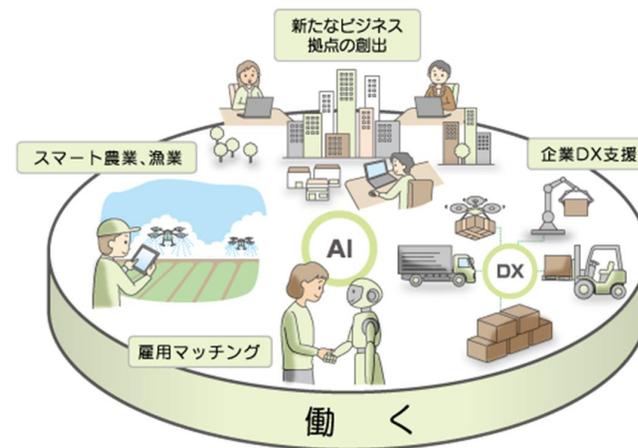
働きたい魅力的な企業が立地し、若い世代を中心に誰もがライフスタイルや価値観に合った働き方が実現できる社会が構築されています。

一次産業のデジタル化やオートメーション化が進展し、生産性の向上が図られるとともに、担い手の育成も進んでいます。また、地域産品のブランド化が進むことにより、付加価値の向上や販路が拡大するなど、収益性の確保による持続可能な生産体制が構築されています。

## 想定される事業

2026年～

- ・若者や女性が働きたいと思う企業の誘致
- ・AIの活用支援など企業DXの支援
- ・コワーキングスペース<sup>(\*6)</sup>やサテライトオフィス<sup>(\*7)</sup>の整備
- ・ICTやロボット等によるスマート農業・スマート漁業の推進
- ・短時間労働者、外国人、高齢者、障がい者等の雇用のマッチング



\*6：コワーキングスペース

様々な職種の人たちが空間を共有しながら仕事を行う空間のこと

\*7：サテライトオフィス

企業または団体の本拠地から離れた所に設置されたオフィスのこと

## ⑤ 暮らす

## 現状と課題

2025年

移動手段の確保や空き家対策を強化する一方、移住希望者が求める暮らし方に適した住まいの確保の支援と、犯罪のない安全で安心なまちづくりや災害対応力の向上、計画的なインフラ整備や老朽化した設備・施設の長寿命化を進め、安全で利便性の高い社会基盤を構築することが重要となっています。

また、救急・消防体制の更なる充実、高齢化による医療需要に応える質の高い医療提供などが求められています。

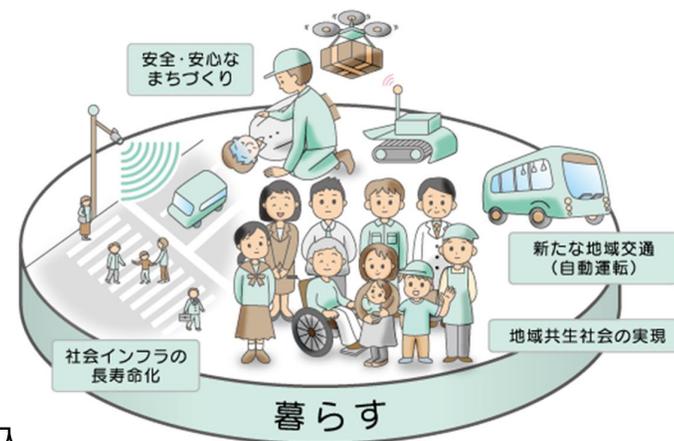
## 目指す未来の姿

2035年

新たな地域交通の導入や社会インフラの効率的な管理、空き家問題解消に向けたデータの整備・活用により、誰もが安心して快適に暮らせる社会が実現しています。

防災や消防のDX推進により自然災害への対応力が強化されるとともに、ネットワークカメラの活用による効果的な防犯対策が進むなど、安全なまちづくりが進展しています。

世代や分野を超えて地域がつながることで、年齢や障がいの有無にかかわらず、住み慣れた地域で安心して健康に暮らせる地域共生社会が形成されています。



## 想定される事業

2026年～

- ・ライドシェア<sup>(※8)</sup>、自動運転バス・タクシー等の新たな地域交通の導入
- ・デジタル技術を活用した効率的な社会インフラの管理
- ・空き家情報のデータベース化による空き家対策の強化
- ・センサーやカメラ等を活用した防災・消防・防犯のDX推進
- ・関係機関との情報共有による福祉・医療の質の向上

※8：ライドシェア  
一般のドライバーと移動を希望する乗客をマッチングさせるサービスのこと

## ⑥ みがく

## 現状と課題

2025年

観光客の滞在時間延長や消費拡大を目指し、多様なニーズに対応した観光基盤や受入体制の整備を進める必要があります。併せて、内川周辺の景観や食文化などの地域資源を「射水ブランド」として確立する必要があります。幅広い媒体を活用し射水の魅力を国内外へ発信し、地域活性化と市のイメージ向上を推進することが求められています。

また、人口減少対策として、地方移住への関心を捉えた施策を展開し、移住先として選ばれるための魅力を高める必要があります。

## 目指す未来の姿

2035年

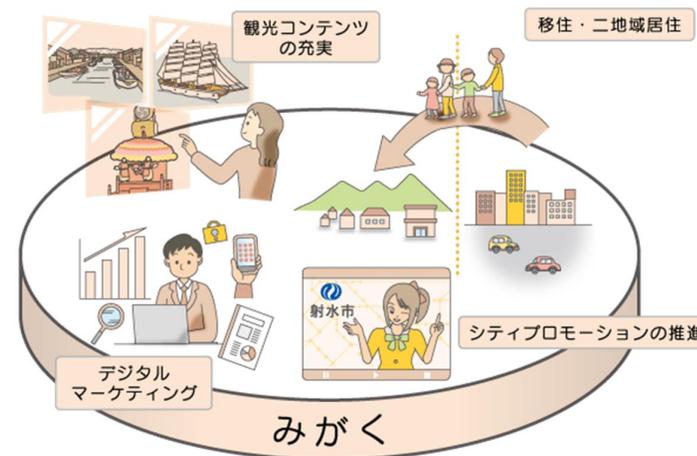
旅行会社や旅マエ(\*9)の観光客から観光地として選ばれるよう、XR(\*10)などを活用したリアルな情報発信が行われるとともに、AIなどのデジタル技術の活用により、最適な観光ルートが提案されるなど、滞在時間の延長や消費拡大が図られています。

また、市民が地域に誇りを持ち、居住地として選ばれる持続可能な地域を築いています。

## 想定される事業

2026年～

- ・ AIによる観光客に合わせた最適な観光ルートの提案
- ・ XRなどを活用した情報発信
- ・ 射水ブランドの確立に向けたデジタルマーケティング(\*11)の展開
- ・ ニーズに合わせた情報発信による移住・二地域居住等の促進
- ・ 複数の媒体を利用したシティプロモーションの推進



\*9：旅マエ

旅行者が旅行前に下調べをする期間

\*10：XR (cross reality)

現実世界と仮想世界を融合することで、現実にはないものを知覚できる技術の総称

\*11：デジタルマーケティング

ウェブやSNSなどを活用し、商品やサービスを効果的に訴求・推進するマーケティング手法のこと

## ⑦ つなぐ

## 現状と課題

2025年

スポーツ施設や宿泊施設などを活用し、にぎわい創出と交流を推進する必要があるとともに、担い手不足や担い手の高齢化が進む中、地域における人材の確保が必要となっています。

また、外国人の増加や、働き方、ライフスタイルの多様化を背景に、地域の活性化を実現するため幅広い人材との交流促進が重要となっています。

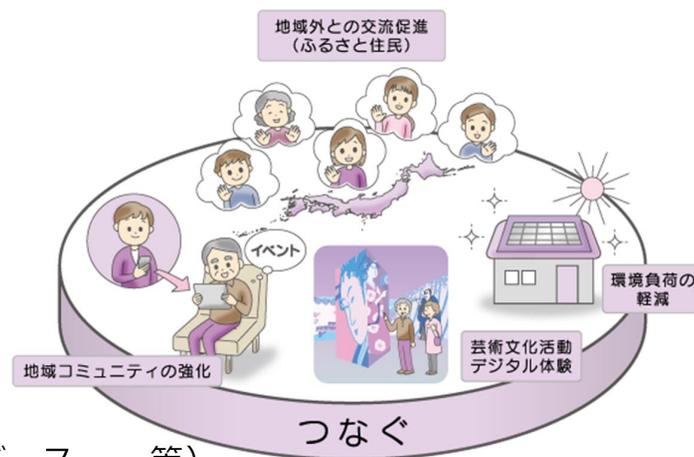
さらには環境負荷軽減と資源リサイクルを意識した活動の推進や、芸術文化の担い手育成、多様化に対応した活動の場が必要となっています。

## 目指す未来の姿

2035年

多文化共生意識が醸成され、地域や文化にとらわれず様々な人々が交流できる仕組みが定着するとともに、地域コミュニティの連携が強化されるなど、地域の活性化が図られています。

また、脱炭素に向けた取組が進み、環境負荷が軽減された持続可能な地域が確立しています。芸術文化活動の活性化が進み、次世代の担い手が育ち、多様性と活力を持ちながら発展する社会が実現しています。



## 想定される事業

2026年～

- ・ 地域外の方がイベント参加や体験、交流ができる環境整備（メタバース<sup>(\*12)</sup>等）
- ・ 自治会アプリの導入促進
- ・ 外国人住民が必要な情報を受け取れる環境整備
- ・ 脱炭素に向けたデコ活<sup>(\*13)</sup>の推進
- ・ デジタルコンテンツを活用した芸術文化活動の推進

\*12：メタバース  
インターネット上に構築された仮想空間のこと

\*13：デコ活  
二酸化炭素を減らす脱炭素(Decarbonization)と環境に良いエコ(Eco)を含む「デコ」と、活動・生活を組み合わせた新しい言葉

## (1) 安心して参加できるように

---

デジタル技術の悪用防止対策をはじめ、個人情報保護、情報セキュリティ対策やプライバシー保護を通じて、安心して利用できる環境を確保します。

また、先進企業などの積極的な参加を促すとともに、信頼性・公平性の確保に努めます。

### 取組例

- 個人情報保護法施行条例や情報セキュリティポリシーの遵守

## (2) デジタルが苦手な方のために

---

DXの推進は、生活の利便性向上や生活様式の多様化に資するものであり、全ての人が幸せや豊かさを実感でき、災害などにも迅速かつ的確に対応可能な安全・安心な暮らしの実現に寄与します。

一方で、デジタル機器の操作に慣れていない方も含めて、市民一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができるなど、DXによるメリットを享受できる社会の実現を目指します。

### 取組例

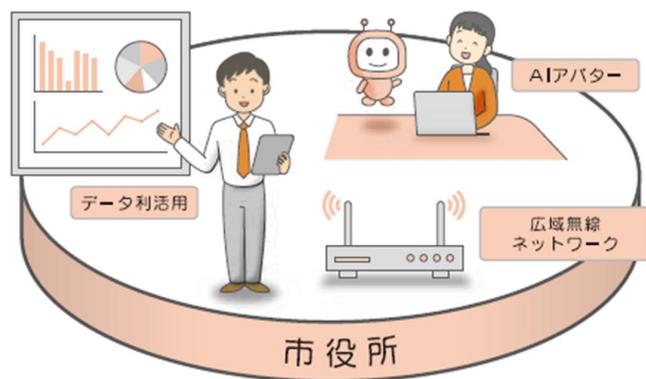
- 利用者がデジタル技術を利用していることを感じさせることなくサービスを利用できる環境の整備
- 希望者のレベルに合わせたスマホ体験教室の開催 等

### (3) 市役所のDX

新たなデジタル技術を活用し、業務の効率化を図ることで、多様化するニーズへの対応や職員がコア業務に注力できる環境を整えるなど、市民サービスの向上に努めます。

#### 取組例

- 窓口業務の自動化・効率化、24時間窓口の推進(自治体フロントヤード改革<sup>(※14)</sup> 等)
- 国や県の施策(PMH<sup>(※15)</sup>、公共サービスメッシュ<sup>(※16)</sup>、データ連携基盤 等)と連携した市民サービスの向上
- AI、ロボット、センサーを活用した市民サービスの向上と業務効率化
- ビッグデータやオープンデータの利活用推進(地図情報の可視化、官民データ利活用の推進 等)
- ペーパーレスやテレワークの推進による働き方改革
- 市民目線に立ち、積極的にデジタル技術の活用を推進する職員の育成



#### 自治体DX推進計画（重点取組事項）

- (1) 自治体フロントヤード改革の推進
- (2) 地方公共団体情報システムの標準化
- (3) 「国・地方デジタル共通基盤の整備・運用に関する基本方針」に基づく共通化等の推進
- (4) 公金収納におけるeL-QR<sup>(※17)</sup>の活用
- (5) マイナンバーカードの取得支援・利用の推進
- (6) セキュリティ対策の徹底
- (7) 自治体のAIの利用推進
- (8) テレワークの推進

※14：自治体フロントヤード改革

窓口や電話・オンラインなど、住民と行政との接点を見直し利便性を高める取組

※15：PMH（Public Medical Hub）

自治体や医療機関をつなぎ予防接種や母子保健に関する情報を安全に連携する仕組み

※16：公共サービスメッシュ

行政が持つデータの活用・連携を迅速にするための情報連携基盤

※17：eL-QR（エルキューアール）

公金収納に活用できる地方税統一QRコード

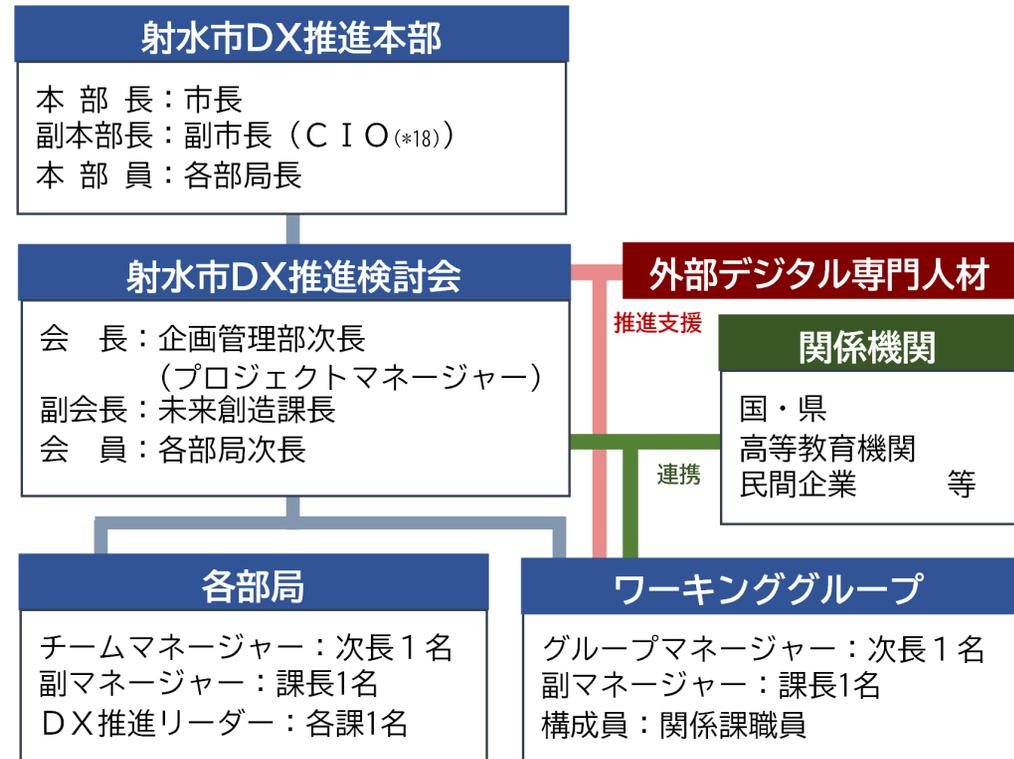
## (4) DX推進体制

本市のDX推進事業を迅速かつ的確に実行するため、市長を本部長とするDX推進本部を設置し、DX推進に関する全体方針の決定や必要な事項の審議を行います。

また、各部局のマネージャー(次長)で構成するDX推進検討会を設置し、部署を横断してDXに関する具体的な検討・調整を行います。

各部局にチームマネージャー、副マネージャー、DX推進リーダーを設置し、検討会に付議すべき事項の調査・研究を行い、複数の部局をまたぐテーマの検討については必要に応じてワーキンググループを設置します。

### 射水市DX推進体制図



\*18：CIO（Chief Information Officer）  
 情報統括責任者



射水市DXビジョン Ver.2.0  
令和8年3月策定

射水市DX推進本部  
(事務局：射水市 企画管理部 未来創造課)  
〒939-0294 富山県射水市新開発410番地1  
電話 0766-51-6614  
メール dx@city.imizu.lg.jp